

ポジティブな行動支援（PBS）とは？ ～望ましい行動を増やすアプローチ方法について～

○ポジティブな行動支援（Positive Behavior Support）とは？

・・・児童生徒の望ましい行動を育てる支援方法です！

PBSの考え方のポイント

- ・何か問題が起きた後に支援するのではなく、予防的な支援であること。
- ・できていないことに着目するのではなく、できていることに着目すること。
- ・望ましくない行動を「罰則や叱責」で減らすのではなく、望ましい行動を「称賛や承認」で増やし、結果的に望ましくない行動を減らすこと。

PBSの考え方の前提に、児童生徒の行動の捉え方があります

「気になる行動」を3つの場面に分割した上で、
行動の前後にアプローチし、「望ましい行動」を増やすための工夫をしましょう



行動の前の工夫

- ①望ましい行動を起こしやすくなるような、**環境を整える工夫**
※工夫の仕方はページ下部の「学習指導要領に記載されている配慮事項について」も御参照ください。
- ②何をしたら良いかがわかるような**指示の工夫**
(例) 具体的・端的な指示、わかりやすい言い方

行動の後の工夫

- ①望ましい行動に近づいたときは…
具体的・即時的に褒める、承認する
- ②望ましくない行動のときは…
怒る・叱るなどの**過剰な反応をしない**
代わりに、望ましい行動に近づいた際に褒める

学習指導要領に記載されている配慮事項について

学習指導要領 各教科解説第4章内「障害のある児童生徒への指導」のポイント

- ・「通常の学級においても、発達障害を含む障害のある児童生徒が在籍している可能性があることを前提に、全ての教科等において、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援ができるよう…」と明記されている。
- ・**～な場合【困難の状態】**・**～するために【配慮の意図】**・**～の配慮をする【手立て】**のように、配慮事項が体系立てて記載されている。

例①

声を出して発表することに困難がある場合や、人前で話すことへの不安を抱いている場合には、**紙やホワイトボードに書いたものを提示したり、ICT機器を活用して発表したりするなど**、多様な表現方法が選択できるように工夫し、**自分の考えを表すことに対する自信がもてるような配慮**をする。
(小学校学習指導要領解説 国語P.160)

例②

文章を読み取り、数量の関係を文字式を用いて表すことが難しい場合、**生徒が数量の関係をイメージできるように、生徒の経験に基づいた場面や興味ある題材を取り上げ、解決に必要な情報に注目できるように印を付けさせたり、場면을図式化したりすること**などの工夫を行う。
(中学校学習指導要領解説 数学P.165)